



バイクだけでなく、ダーツのお客さんも多い。そのためダーツケースも数多くのラインナップがある。



バイク以上にハマっているのがダーツ。篠崎さんは「Aフライト」で、これは上から2番目のレベル!



1階ガレージを奥に進むと現れるのがダーツマシンなどを置いたスペース。ここにはダーツマシン2台の他、スロットマシンやゲームなどが置かれている。



2台のダーツマシンの間には、これまで開催された大会でのトロフィーや記念品、ダーツのアイテムなどが飾られている。



2階へと続く階段の下には、工具やケミカル類、そして現在製作中のモンキーカスタムが並べられている。



大正時代に製作されたというかき氷器は、現代の機械にはない美しいデザインを持つ。氷室を営むダイツチームのメンバーから夏限定で借りている。



お気に入りのアイテムは、アメリカでネイティブから購入したバンダリアンやアンティークピースを使った自作のアクセサリー、結婚指輪など、それぞれにさまざまな物語がある。



ダイツ仲間からもらったステンドグラス調のスタンドライトは、そのお母さんにも手作りである。



篠崎さんと奥さん、そして5歳になるお子さん、それぞれがライダースジャケットを愛用。まさにバイカーファミリー!!



下のネックレスはヘッドをアメリカのネイティブから購入し、レザーのヒモを自作。上のネックレスはヘッドのガラスを自分で溶かして製作したという力作だ。



「フォーマーケット」で購入したというチェスは、駒がすべて異なる国のプリムのキーマンターになっている。



最近のお気に入りには自作の革入れスライド式になっており、いさすグッツと間違えられるのだとか。



最近よく買えたヘルムも、多人数に並ぶお気に入り。



「いいければ、気分は夏休み。」



篠崎博美 39歳。革職人。千葉県在住。ヤマハ ビラーゴチョッパー、ホンダCB250RS、モンキー5-6台 (部品取り車含む) 所有。

レザークラフトや彫金を得意とする「フレイクブリズ」を営む篠崎さんが、その工房をここに開いたのは10年前。以来この場所は仕事場としてはもちろん、ガレージとして、また仲間と語る場、そしてひとりの時間を過ごす場となっていたのだという。

建物は2階建てになっており、1階は工房とガレージがメイン。篠崎さんがプライベートなひとときを過ごすのは主に2階だ。

手作りの階段を上ると、まずはソファと広めのテーブルがある。ここは主に仲間たちとのくつろぎの場になっており、正面には巨大なスクリーンが見える。お気に入りの映画を観ながら語り合おう。そんな場所である。

そしてその隣にはやや狭いながらも木製の壁に囲まれた部屋。こちらは篠崎さんがひとりで過ごす部屋で、レザークラフトの仕上げをしたり、バイクパーツを磨いたり……。

「朝から晩までほとんどずっとここにいます。泊まることも多いですね。要するに仕事から遊び、生活のすべてがここにあるんです。家はすぐ近くにあるけど風呂に入る時に帰るくらいですね笑」

会社員やコンビニオーナーを経て現在の仕事を始めた篠崎さんだが、もともとモノ作りが好きだった。だから、今の仕事には「何もイヤなことがない」と笑う。

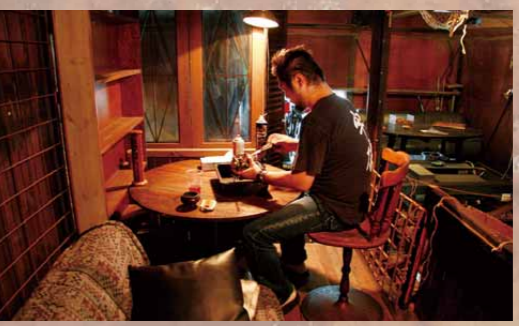
「前の仕事を辞めてから、働いている気分はないんです。ここで過ごしていると、気分はずっと夏休みなんです笑」



現在製作中のビラーゴIIのチョッパー。そのキッカケは、お客さんがフォーク交換で余ったレスコフォークを置いていったから。



トライアングルのエンジンは、現在製作中のカスタムバイクに搭載予定。



99年、アメリカに行った際にスワップミットで購入した生剥骨。最初は個80ドルと買われたのに、結局3000ドルで購入した。ひとつは自身の結婚式、次はの養子、もうひとつは友人の結婚式のプレゼントした。



壁掛け時計はお祖母さんの形見。ストーブは一見薪ストーブに見えるが電気式だ。